

高山線萩原小坂間建設工事概要

鐵道省岐阜建設事務所長 佐 武 正 一

高山線

高山線は岐阜を起點とし飛驒高山に至る延長137 軒餘の線路であつて高山より富山に出づるを飛越線と云ふ。

高山線は大正七年に岐阜方より着手して本年八月迄に110軒7分を開通し飛驒小坂に達した、殘餘の28軒5分は目下土工工事中にて昭和九年の秋に全通の豫定である。

飛驒萩原、飛驒小坂間 (第十一工區)

線路は岐阜を出で、程なく各務ヶ原飛行場を右に木曾川に沿ひ日本ラインを辿り上れば遂に俯瞰しつゝ北上し飛驒川の山狭に入り益田川の奇勝、中山七里の豪宕壯麗に接す。之れの盡くる處河岸より山腹に到る點々綠中に散見する家々は湯の町下呂温泉なるべし。

晏如三時間車窓の眺めあかずして飛驒萩原に着す。

之れより萩原、小坂間は飛驒街道に沿ひ概して平圃を行くも益田川の清流は兩岸高く吃立し、或ひは近くせまりて滔々の響は騒音を消し、或ひは遠く離れて深潭の靜寂を見せ、迫りては河底の奇岩怪石もあらはに水に激し

流れに抗して飛沫を擧げる様も遂に鐵橋の下に隠る。工夫の苦心又思ふべきなり。

高山線飛驒萩原飛驒小坂間建設工事概要

起工 昭和六年十月十五日

竣工 昭和八年八月廿四日

區間 飛驒萩原驛(既設)飛驒小坂驛間延長12 軒130 米

線路 單線 軌間1米067

勾配 最急 千分の20

曲線 最小 300 米

築堤 167,700 立米

切取 159,600 立米

橋梁 10 ヶ所 延長598 米5

溝橋 5 ヶ所

伏樋 141 ヶ所

停車場 上 呂(既設飛驒萩原驛より4 軒170 米)

飛驒小坂(上呂驛より7 軒960 米)

使用セメント 52,440 袋

用地 191,570 平米

軌道 本線11軒714 米 側線1軒540 米

保安設備 第二種聯動裝置

建設費總額 約九拾五萬七千圓

請 負 株式會社大林組

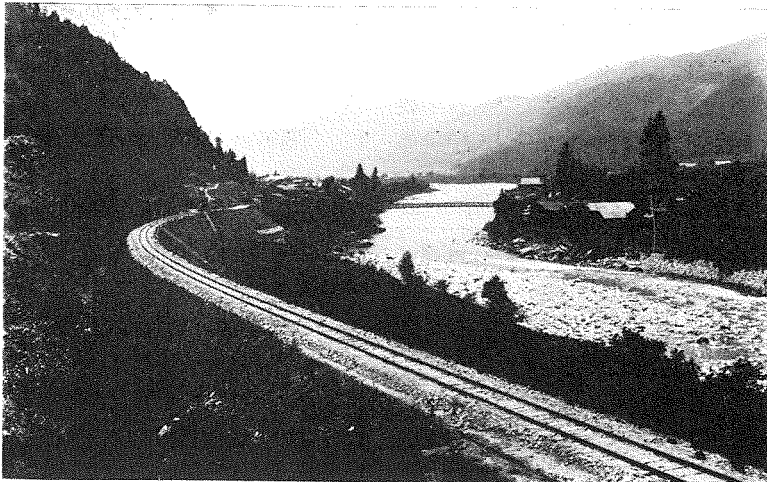


(1) 工區始點98杆
4 附近より振り返って
萩原町及益田川を望む
右側線路下が縣道なり



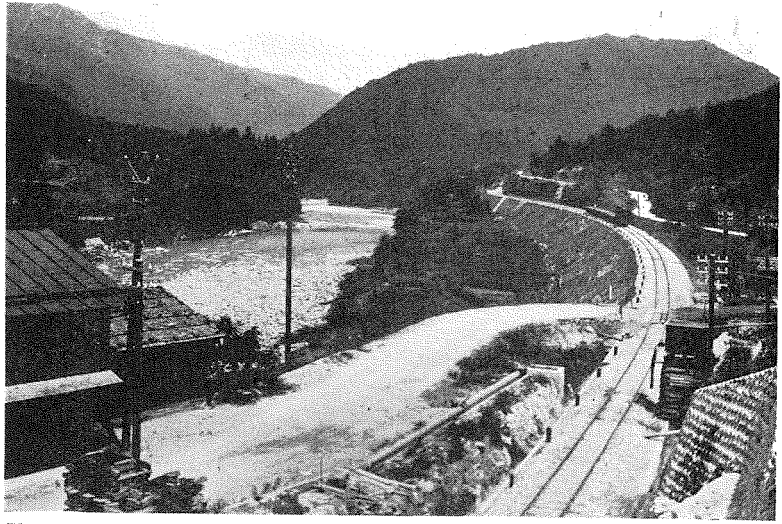
(2) 上呂停車場一
岐阜縣益田郡萩原町大
字上呂にて飛彈路に珍
らしい平田なる耕圃を
有す。

附近には飛彈工匠の
作りし鯉の傳説に名高
き特別保護建造物縣社
久津八幡宮あり。

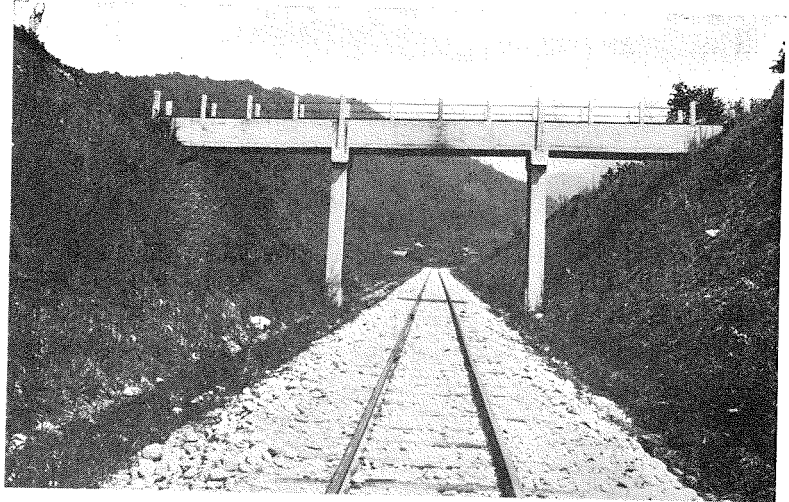


(3) 103杆2 附近
より川下の上呂部落を
見る中央少し左寄りに
本線土留擁壁の切取法
肩に用水路ありて山腹
の突出部に疏水隧道を
穿つ。

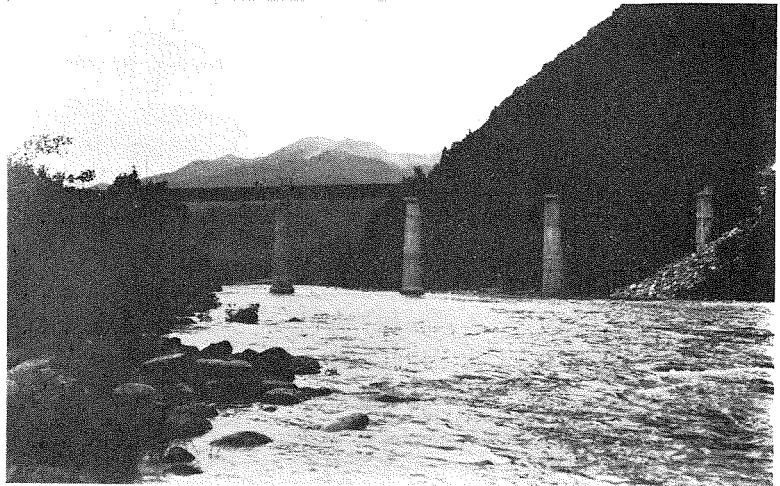
(4) 103 杆 0 縣道
踏切附近より川上線路
を見る。



(5) 103 杆 530
橋場水道橋
切取兩側は水田にて
下部は水路橋として
上部に板張を設け通路
となす。



(6) 104 杆 200 第
九益田川橋梁一下流よ
り望む
支間 9米8 2 連
22米3 4 連
延長 111 米 85
橋脚の高きは鐵筋コン
クリートの「ホーロー
ピーヤ」にて河心流水個
所の基礎は井筒工にし
て深きは 8 米 5 ありて
何れも岩盤に敷入す。



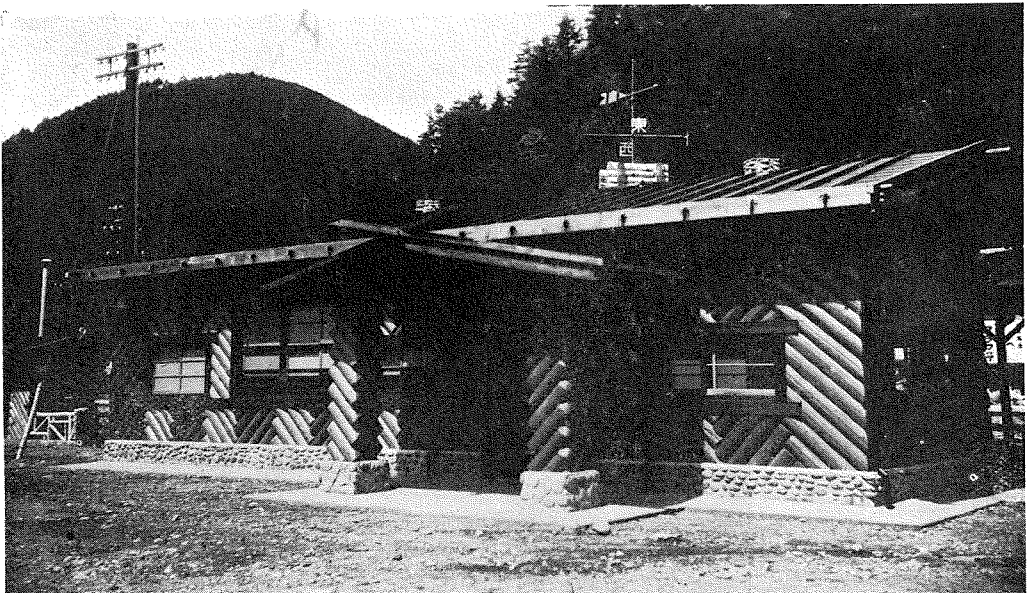


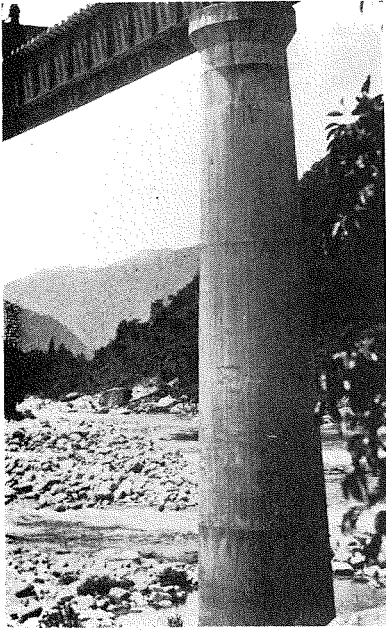
(7) 106 杆 100 第 拾 益 田 川 橋 梁 の 遠 景。

支 間	16米 0	1 連	延長 153 米 46
	22米 3	6 連	

(8) 110 杆 420 米 飛 彈 小 坂 停 車 場 は 益 田 郡 小 坂 町 大 島 に 設 置 す。本 屋 は 在 來 の 型 を 破 り 登 山 氣 分 を そ そ る 山 小 屋 を 表 現 せ り。外 廻 り 全 部 杉 の 心 去 り 丸 太 二 つ 割 の 組 合 せ に て 仕 上 げ 柵 垣 は 白 樺 丸 太 を 使 用 し 新 し き 内 に も 雅 味 を 出 せ り。

待 合 室 は 落 着 き た る 氣 分 を 出 す 爲 め に 腰 板 に は 丁 能 は つ り の 梁 材 を 用 ひ 特 に 意 匠 を 凝 せ り





(9) 109 杆附近より見たる小坂町の遠景でこの附近は急峻なる山腹を
匍ひ益田川の断崖に沿ふを以て幾多の土留擁壁を施工したり

(10) 107 杆 900 第拾壹益田川橋梁小坂方より下流を望む(上中央)

支間	12米9	1連	延長127米45
	22米3	5連	

(11) 小坂町、益田郡の最北部にて小坂川と益田川の合流點に位し四圍巒岳に繞らされた山紫水明の地たり。

附近には豊富な濁河温泉及び高天ヶ原スキー場等あり又木曾の靈峯御嶽山への登山の捷路に當る近くは森林鐵道の開通ありて林産物の搬出大なるべし

